

広島県

安芸高田市



広島県

中国山地の豊かな自然と文化に育まれたまち

中国地方の中部、広島県の北部に位置する安芸高田市は、平成十六年三月に旧高田郡の六町（吉田町、八千代町、美土里町、高宮町、甲田町、向原町）が合併して誕生しました。約五百四十平方キロメートルある面積の八割が森林で占められ、中国山地の山々と豊かな自然に抱かれて約三万二千人が暮らしています。

市の北部を中心に、畜産・野菜・果樹・花・酒米づくりなどが展開されており、広島市と隣接する南部では商工業が盛んです。また戦国時代に中国地方統一を成し遂げた名将・毛利元就を生んだ地としても知られ、その生涯を過ごした安芸高田市には毛利氏ゆかりの史跡が数多く残されています。近隣には中国電力株の可部水力発電所（最大出力三万八千ワット）や新熊見水力発電所（最大出力二万三千ワット）があり、地域に電気を供給しています。

高田郡六町の合併を前に危機感が高まる

合併前の旧高田郡では、各町で人口の減少と少子化・高齢化が進行していました。産業においても長引く経済不況と地域間競争の激化で、農業・商業とも全般に生産力が低下するなど、地域経済は停滞を続けていたのです。そのような中で、合併がさらに住民へ悪い影響を及ぼすのではないかと、地域全体に不安が広がっていました。

「とくに周辺地域では、合併でますます『辺地』となってしまうのではないかと不安の声が高まっていました。このままでは住民の声が行政に届かなくなってしまう。栄えたとしても中心部だけで、周辺部は取り残される…」と当時高宮町役場に勤務さ



2



1



3

1. 5月下旬から6月上旬にかけて、市内各地で開催される「はやし田」。お囃子にあわせて一斉に歌い、田植えをする。 2. 西日本でも有数の桜の名所である八千代湖畔（土師ダム） 3. 安芸高田市の伝統文化の一つ「神楽」。市内には約20の神楽団があり、安芸高田市の歴史と文化を支えている。

Pick Up

自治意識の高まりで地域力がアップする 住民と行政の「協働」でいきいき住みよいまちづくり

平成十六年三月に六町合併を控えていた安芸高田市では、圏域が拡大することにより住民の声が市政に届きにくくなるのではないかと不安が広がっていました。そういった不安を解消すべく、安芸高田市はさまざまな試みに取り組み始めました。今回は、住民の自治活動と行政の支援による「協働」で地域活性化を加速している、安芸高田市の取り組みをご紹介します。



川根振興協議会
会長 辻駒 健二さん

「たえば農業でも、今後人口が減って高齢化していけば、農地を個人で守っていくには限界がある。小さな集落では守るのさえ難しい。集落を越えた区域での助け合いが必要だったのですが、合併の話がきっかけで各地域に危機感が生まれまして」と小田さん。地域で助け合っていくには、住民自らが地域のために活動する自治機能と、実情を行政に反映させる新しいシステムづくりが必要でした。そうした中、平成十四年に発足した「高田郡六町合併協議会」では、合併後も住民がいきいきと安心して暮らせるまちづくりをめざして検討が重ねられたのです。

川根地区のさまざまな自治活動

■エコミュージアム川根

廃校になった川根中学校の跡地を利用し、平成四年に建てられた「エコミュージアム川根」は住民自治のシンボリックな存在です。川根の魅力をアピールする農村と都市の交流施設として、宿泊室・レス

■ふれあいと助け合い活動
「お互いさま」の心を大切にしたい助け合いの活動も根付いています。「一人一日一円募金」もそのひと



安芸高田市役所 総務企画部 自治振興課
課長 小田 忠さん

安芸高田市地域振興組織区域図



組織名	設立年	(世帯)	(人)
1 吉田地区振興会	昭和53年	2,128	5,144
2 丹比地区振興会	昭和53年	626	1,584
3 可愛地区振興会	昭和53年	1,391	3,194
4 郷野地区振興会	昭和53年	562	1,445
5 土師・勝田地域振興会	平成15年6月	340	770
6 佐々井地域振興会	平成15年4月	383	960
7 下根地域振興会	平成15年8月	402	1,081
8 上根・向山地域振興会	平成15年7月	416	1,099
9 横田振興会	平成14年3月	338	1,022
10 本郷地域づくり協議会	平成13年7月	332	936
11 北振興会	平成13年12月	260	765
12 生桑振興会	平成14年9月	257	678
13 川根振興協議会	昭和47年2月	264	608
14 下佐振興会	昭和54年4月	162	387
15 志部府親交会	昭和58年1月	46	115
16 上佐一心会	昭和58年1月	173	465
17 船木振興会	昭和56年7月	254	565
18 房後連絡協議会	昭和57年6月	112	275
19 東原地区コミュニティづくり連絡協議会	昭和53年7月	615	1,469
20 羽佐竹振興協議会	昭和57年12月	147	393
21 小原地域振興会	平成14年11月	644	1,661
22 小田東地域振興会	平成15年1月	764	2,058
23 甲立地域振興会	平成14年6月	728	1,981
24 保垣地区振興会	平成15年7月	147	321
25 有留自治振興会	平成16年2月	117	307
26 長田上地域振興会	平成16年2月	144	349
27 長田下地域自治振興会	平成16年2月	161	363
28 向井原地域振興会	平成15年12月	266	680
29 坂下地域振興会	平成16年3月	223	556
30 坂中地域振興会	平成15年12月	187	479
31 坂上地域振興会	平成15年12月	135	307
32 戸島地域振興会	平成16年2月	478	1,206

(安芸高田市市勢要覧より、世帯数・人口=平成19年4月1日現在住民基本台帳)

三十二の地域振興会に区分組織づくりがスタート

「高田郡六町合併協議会」がテーマとしたのは、住民と行政の対話を基礎とした「協働のまちづくり」の推進でした。行政は積極的に情報を開示し、住民の自治活動を支援する。住民は「自分たちの地域は自分たちの手で」という意識を持って活動を行う。この考えに基づいて、自治活動の各エリアを設定すべく、安芸高田市となる地域全体の新しい区割りを行いました。「行政が勝手に決めるのではなく、旧村や小学校区な

ど昔からあったコミュニティの区域をもとに住民の実情に合わせて三十二に区割りがされました。世帯数五十戸未満の区域から二千戸を超える区域まで、規模はいろいろになりましたが、まとまりや連帯意識は強い。それに地域の特色も表れる結果となりました」と小田さんは語ります。そして三十二の地域に、以前からあった各地域の自治組織を土台とした地域振興会を設置。さらに各組織の活動連携を図るため旧町単位に六つの連合組織を設置し、住民主導でのまちづくりが本格的に動き出したのです。

住民自治の先進地・川根地区

安芸高田市の最北にあり、島根との県境に位置する川根地区は、三十年以上も前から住民による自治活動の盛んなところ。この地区は、昭和四十七年の集中豪雨による大洪水で壊滅的な被害を受け

■お好み住宅
子供がいる若者の定住を促進するために「お好み住宅」というユニークな取り組みを行っています。これは住む人のライフスタイルに合わせた間取りの市営住宅で、毎月三万円の賃貸で賃貸するというもの。入居条件は、地域活動への参加と義務教育修了前の子供がいることなどです。

つ。子供からお年寄りまでが毎日一円を募金するというのも、この募金を財源に一人暮らし高齢者の訪問活動を続けています。また、川根小学校の児童が月一回、七十歳以上の一人暮らしの高齢者に手紙を書く「まごころメール」や、児童とお年寄りが歌やゲームなどを楽しむ交流も行われており、お年寄りを元気づけるとともに、温かいつながりが子供たちを成長させています。お年寄りが気軽に寄れる「高齢者ふれあいサロン」も開設。週一回、ケアマネージャーや看護師等の専門職が川根まで出張し、高齢者にデイサービス

スを行う「サテライト型デイサービス」も行っています。農業においては、農地を維持管理していることが困難な人や集落のために「営農環境の助け合いで農地の荒廃を防いでいます。また河川や道路の清掃や、沿道に花を植えるなど、地域の環境や景観の保全にも取り組んでいます。

がうまくいっていませんでした。当時、川根地区が属する旧高宮町の町長(現・安芸高田市の児玉市長)は住民との対話をモットーにしており、振興協議会と役場職員との「地域振興懇談会」が盛んに開かれていました。しかしそれはまるで住民と行政との対決の場だったと、現在の川根振興協議会・会長の辻駒健二さんは回想します。

住民の自治意識が高く、「協働」のモデルとなった川根地区ですが、振興協議会ができた当初は住民と行政との関係

「お互いさま」の心を大切にしたい助け合いの活動も根付いています。「一人一日一円募金」もそのひと





可愛地区振興会で取り組む福原城跡登山道整備

これではいくらか交渉しても良い方向に進みません。」
住民が自分の利害でいくらか文句を言っても何ら得るところがない。そこで、ただ行政に要求するだけでなく、こんなことはできないかと提案する形をとるようになってから関係が変わっていったといいます。

「職員を怒るのではなく、いかに行政から有利な情報を引き出すかが肝心だと気付いたのです。何かを提案すると、行政の側も単にできないではなく代案を出してくる。住民も行政もお互いの立場に立つて考えるようになる。要求から提案へ移行してきたことで、発展的な議論ができるようになってきたような気がします」と辻駒さんは語ります。

リーダーが率先して汗をかく

地区の防災・安全のための車によるパトロールを、辻駒さんは毎日欠かしません。また、農地の草むしりなどの細かな作業も率先して行っています。川根振興協議会の会長

ですが、話し出すと熱くなって十五分の持ち時間をほとんどオーバーしてしまいます。会場前に地域のノボリが立ったり、ロビーにパネル展示をしたりと、すごい盛り上がりです」と語るのは川根振興協議会の辻駒さん。
「たとえば歴史的な建物や昔ながらの景観を守ったとか、子供の安全を見守る制度を作ったとか、高齢者福祉を充実させたなどの報告がありま

を務めて十五年になる辻駒さんですが、当初は住民が思うように動いてくれなかったといます。

「はじめから私の一声で動くというわけにはいきません。それでも自分が先頭に立って汗をかくことで、徐々にみんな

小さな自治システムが やがて大きな幸せを生み出す

行政は財政的・人的の両面から支援

平成十六年三月、安芸高田市が誕生して、住民と行政の協働による新しい取り組みがスタートしました。川根地区をモデルとして、他の三十一振興会もそれぞれの地域の状況に基づいた自治活動を展開。祭りやスポーツイベントの開催、高齢者ふれあい訪問、資源ゴミ回収、組織的な地域防災、歴史遺産の保全などの活動が各地で行われました。行政もそれに合わせて、財政的・人的な支援を行ってきました。市役所の小田さんはこう話

ながついできてくれるようになります。そして、おとうとと努力していたところが、住民から「させてくれ」という方向に変わってきた。やはりみんなが心を合わせてこそ「協働」ですね」と辻駒さんは笑顔で話してくれました。

ます。

「財政的支援として活動支援助成金をすべての地域振興会に均等に分配しますが、事業支援助成金はそれぞれの事業について交付しています。つまり、やる気のある地域を積極的に支援していこうということですね」。

人的支援では、地域活動への行政職員の参加が重要なポイントであるとのこと。

「職員もまた地域の一住民です。振興会の役員、学校のPTA活動、婦人会の運営、少年野球のコーチなど、できることを積極的にを行い、住民として自分の住む地域に関

わつていくことが大切。そして行政にはどんな制度があるかなどの情報を提供し、住民みんなが参加できるように仕掛けていくことです。深く関わることで職員は地域

のことがよく見えてきて、自覚を持つようになり、住民の行政への信頼も生まれます」。

職員のない地域では、各支所の窓口の担当者がきめ細かく相談を受けて支援する仕組みになっていきます。

また、安芸高田市では、「地域から求められる職員像」などをテーマに、毎年職員研修を実施しています。さらに、地域振興推進員を設け、各組織の運営手法などを指導しています。

自治活動の大きな刺激になる「市民フォーラム」

行政の支援としては、対話

がしっかりとして、地域全体で動いているところはまだまだ多くないのが実情です。でも川根のまねをするだけでなく、その地域に合った方法を見つけながら活動を推進することが大切だと思います」。

また小田さんは、地域振興会が行政の下請け機関になつてはいけないと熱く語ります。

「協働のまちづくりは、まず住民自らが、地域のために自分でも何かができるんだ、ということに、気づくことからは始まります。行政に住民が参加するだけでは協働ではない。『自らの地域は自らの手で』とした住民の自主的な活動を行政が的確にサポートするのが理想の形です。行政は地域振興会が活動しやすい環境をしっかりとつくることですね」。

小さな自治、そして協働のまちづくりの原点は、思いやりと助け合い。現代社会では他者への無関心が進み、様々な問題が生まれています。安芸高田市の取り組みは、地域だけでなく日本中に光を投げかけているのかもしれない。



市民フォーラムの様子

電気のふるさと紀行

戦国時代、中国地方を統一した名将・毛利元就。この戦国の雄は、安芸国吉田郡の郡山城(現在の安芸高田市吉田町)に生まれしました。市内では元就の墓所をはじめ、毛利氏ゆかりの数々の史跡を見ることが出来ます。毛利元就といえば「矢は三本重なること」で折れにくくなる」と息子たちに協力の大切さを教えた「三矢の訓」の逸話が有名です。ちなみにこの逸話が、吉田町に練習グラウンドを持つJリーグ・サンフレッチェ広島ของทีม名の由来にもなっています。日本語の「サン・三」とイタリア語の「フレッツェ・矢」の複合語で「三本の矢」の意。
住民と行政の「協働」は、まさにみんなが協力して力強く前進するという安芸高田のお家芸。「三矢の訓」は、四百年以上の時を経て現在も生き続けているのです。



三矢の訓を伝える「百万一心碑」